

令和4年度第1回堺市文化芸術審議会 議事録（要旨）

1 開催日時

令和4年6月24日（金）10時30分～12時00分

2 開催場所

堺市役所本館地下1階 多目的室

3 出席委員（50音順・敬称略）

柿本 茂昭 委員	（公募委員）
さいとう しのぶ 委員	（絵本作家）
菅野 陽子 委員	（公募委員）
田辺 竹雲斎 委員	（竹工芸家）
中川 幾郎 会長	（帝塚山大学名誉教授）
永島 茜 委員	（武庫川女子大学准教授）
坂東 亜矢子 委員	（演劇評論家）
弘本 由香里 委員	（大阪ガスネットワーク株式会社 エネルギー・文化研究所特任研究員）
藤野 一夫 会長代理	（芸術文化観光専門職大学副学長）

4 出席議事関係者（50音順）

上田 假奈代 様
（堺アーツカウンシル プログラム・ディレクター。
以下、「堺アーツカウンシル PD」という。）

5 事務局職員

文化部長、文化課長、文化課長補佐、文化課企画係長 文化課施設管理係長 ほか

6 関係者

公益財団法人堺市文化振興財団事務局長、総務課長、事業課長、事業課係長、フェニーチェ堺企画制作課長

7 議題

- (1) 堺市文化芸術審議会に対する諮問について
- (2) 第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価について
- (3) 委員の視察について
- (4) 令和4年度堺アーツカウンスルからの報告について

8 議事録要旨

開会

<事務局より説明>

議題

(1) 堺市文化芸術審議会に対する諮問について

◎会長

皆さんおはようございます。今日もよろしくご審議のほどお願いいたします。

本日の会議ですが自由都市堺文化芸術まちづくり条例第21条第2項に規定する市長の諮問に応じて審議することとなっております。これはこの審議会のいわゆるレギュラーな仕事です。毎年定例的にこれをするようになります。その前提として条例があって、条例に基づく基本計画が定められています。この計画に沿ってどれくらい堺の仕事がちゃんと進んでいるか、それを検証していくために皆様方には現地評価の視察も行っていただくという段取りになっています。ですので、いわゆるルーチンワークという理解をしてもらえばいいです。時々その年限がきましたら、基本計画の修正をしなくてはいけない。あるいは第2期、第3期基本計画を作る作業に入るというのが、ルーチンでない仕事ということになります。今年度については評価作業が非常に重要な時期に差し掛かっていると思いますので、どうか慎重にご審議をお願いいたします。それでは事務局から簡単にご説明いただけますか。

<事務局より説明>

議題

(2) 第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価について

◎

ありがとうございます。ただ今諮問を受けました。それでは引き続きまして議題の2に入ってよろしいでしょうか。第2期堺文化芸術推進計画の検証評価について審議いたします。

事務局からご説明をお願いします。

<事務局より説明>

◎会長

ありがとうございます。ご説明いただきました件について、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。評価すべき価値軸を意識して視察に行っていたきたいので、ご質問がありましたらおっしゃってください。推進計画そのものを検証評価していく審議会の位置づけについては確認できており、それに伴い今年度の現地視察を行うことについてご了解いただけますか。

議題

(3) 委員の視察について

◎会長

それでは続きまして議題3、委員の視察についてでございます。事務局さんからご説明をお願いします。

<事務局より説明>

◎会長

はい。今のご説明に対してご理解いただけましたでしょうか。事業の中身についてでも構いません。さかいミーツアートとアートスタートプログラムについては、これはこの審議会が提起した仕事で、さかいミーツアートは学校にアーティストが訪問する事業、アートスタートプログラムは就学前の子どもを対象とした、こども園や保育所、幼稚園をアーティストが訪問する事業です。ですから、先方のご都合に合わせてしますので日程が未定ということです。いつ頃日程はわかりますか。

●堺市文化振興財団

堺市文化振興財団事業係長です。ご説明いたします。さかいミーツアート、アートスタートプログラムに関して。まずアートスタートプログラムの方が順次打ち合わせで日程が決まってきておりますので、今年度に関しては18件程度予定しておりますが、そのうちの5、6件については、おそらくもうすぐに日程を公開できるかと思えます。それ以外については打ち合わせの日程自体がまだ決まっていないところも多く、あと1ヶ月から1ヶ月半お待ちいただければと思っております。

◎会長

はい。ありがとうございます。私の個人的な思いとしてはさかいミーツアート、アートスタートプログラムはぜひとも各委員に見ていただきたいと思っております。これは堺市の生命線だと思っています。子どもとアーティストが接点を持つ事業なので。さかい利晶の社は、施設でやっている展示など自主事業の評価を行うことになると思うのですが、北野田エンターテインメントフェスティバル、ワークショップの実践研修、ダンスパワーの事業内容を教えていただけますか。

●文化課

北野田エンターテインメントフェスティバルについて、東文化会館は北野田という南海高野線の急行が停まる非常に駅近の文化会館でございます、ホールや色々な諸室がある施設です。地元と協働いたしまして、区や周囲の色々な方を巻き込み、様々な事業をやっていくという町おこしの事業です。駅近にある文化会館なので、町おこし、そして文化に親しんでいただく事業で、落語とか色々なイベントをやるんですけども、プロの方も出演しますが、アマチュアの方にも出演いただきます。非常に地域と密接したイベントということで今回視察対象としております。

ワークショップ実践研修は、推進計画の重点的方向性である「文化芸術とともに生きる」という観点から実施する堺市文化振興財団と堺アーツカウンシルの協働事業です。推進計画の中でも、地域の文化会館のアートマネジメント能力の向上を掲げておりますので、その趣旨にも沿うものです。西文化会館は大阪ガスビジネスクリエイトが指定管理者ですが、指定管理の枠を超えてフェニーチェ堺、榎文化会館、東文化会館、美原文化会館、西文化会館、中文化会館、財団の事業課、文化課の職員が参加し、令和5年度にワークショップの事業を実践できるレベルに到達することを目標として、堺アーツカウンシル及び財団事業課主導のもと1年間学んでいく事業です。市民対象ではありませんが、このような事業は以前より実施したいと考えておりました。8月23日に第2回の開催を予定しております、ぜひ皆様にご視察いただきたいと思っております。

ダンスパワーについては、堺市文化振興財団より説明いただきますので、さかい利晶の社について説明します。さかい利晶の社の視察は、施設の事業視察になります。自主事業として、呈茶などの堺ならではの茶の文化のご紹介と、2階にある展示室で、文化財課と博物館が共同して遺跡から出土した茶のうつわの展示も行いますので、そちらの事業も併せてご覧いただきたいと思っております。

●堺市文化振興財団

ダンスパワーですが、まず時間が17時30分開演を予定しておりますので、資料の修正をお願いします。本事業は市内高校ダンス部の表現発表の場ということなんですけども、堺市内には過去紅白歌合戦に出場した登美丘高校のダンス部をはじめ、全国大会で上位入賞している泉陽高校、また堺西高校というようなダンス部がございます。昨年はダンス甲子園で優勝しました初芝立命館高校のダンス部もございます。そういった高校ダンス部が一同に会しまして、高校生たちの発表の場となっているイベントです。

このイベントにつきましては、去年は関西テレビから取材を受けまして、堺の発信にも寄与していると感じております。今年に関しましては、春シーズンに全ての市内の高校を府立で17校、私立8校、市立校が1校ありますが、再度出場の意向ということを確認しております。今回新しい高校がいくつか参加する予定になっております。以上です。

◎会長

ありがとうございます。登美丘高校は昨年じゃなくて一昨年でしたか。

●堺市文化振興財団

登美丘はかなり前になります。

◎会長

紅白に出たのはコロナ前ですか。西暦2020年、19年か18年かな。ものすごく有名になりましたよね。どこにある学校かと。その後優勝したがどこでしたか。

●堺市文化振興財団

初芝立命館高校が昨年ダンススタジアムで優勝しております。

◎会長

なるほど。登美丘じゃなかったんですね。

●堺市文化振興財団

はい。

◎会長

わかりました。質問があればお受けしたいのですがいかがでしょう。なければ私は幾つもの質問があるのですがよろしいですか。まず社会包摂型ワークショップ実践研修について、これはぜひともやってもらいたいことをお願いしたいんですが、具体的な組み立てはどうなっていますか。講師や、カリキュラムなんかも教えてください。財団でも、プログラム・ディレクターでもどちらでもいいですよ。

●堺アーツカウンスル PD

おはようございます。この事業の組み立てなんですが、昨年、財団事業課の方で担当者会議ということで、指定管理の事業企画担当の皆さんに向けて実施していた座学の講座です。堺アーツカウンスルとしても、特に勉強会・交流会以外の堺アーツカウンスル主催事業の事業費があるわけではない中、地域文化会館の職員さんが市民と接する最前線にいらっしゃる方々なので、きっと良いことだろうと思ひまして、よりマネジメント力をつけられるよう、堺アーツカウンスルのモデル事業として、財団と協働させていただくことにしました。

アーツカウンシルのPOの中には、コミュニティデザインであったり、ファシリテーションだったり、制作であったりというような専門性の高いメンバーがおります。そのPOにまず組み立てを担ってもらい、進行しすすめています。職員さんにはワークショップの運営についてあまりご存知ないという方もいらっしゃいました。まずワークショップの組み立てを実際に行って、それを分解して、どのようにワークショップが組み立てられているかを学んでいただく形が良いのではないかと考えています。その時には、私もワークショップを2、30年やってきた経験があり、意見をお伝えしています。その後、アーティストを実際選定して、どのようにアーティストと一緒にワークショップを組み立てていくか、アウトリーチであれば、アウトリーチ先の方とどのようにヒアリングをすることで良い組み立てができるかというようなことも学びながら次年度に向かっていく形になっています。

◎会長

はい、わかりました。アーツカウンシルが、実施主体の一つに入っているの、今PDにお答えいただいたということですけど。社会包摂型ということですから、指定管理者におかれましては、これはもう公設型劇場、文化施設の本来の使命を再確認することになるのではないかなと思うんですけど。昨年、一昨年にも行政側をお願いしたんですけど、まかり間違ってもとにかく赤字を出すな、お客さんはいっぱいにしてくださいみたいな、ポピュリズムの運営だけで指定を出すのはやめてほしいと。本来のその公共劇場の公益性という意識でやってもらいたい。そのためには社会包摂、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の理念を大切にしてくださいとお願いしました。そういう点でこの研修はいるよねという話です。皆様ぜひとも見に行ってください。お願いします。

他質問ご意見ございませんか。なければ、順次ご意見をもらう時間も設けますけれど、先にアーツカウンシルの今年度の活動予定について説明いただくということでいいでしょうか。それで堺アーツカウンシルからの報告をよろしくお願いします。それでは堺アーツカウンシルの活動予定について、資料7をご覧ください。

議題

(4) 令和4年度堺アーツカウンシルからの報告について

●堺アーツカウンシル PD

公募型補助金が始まって2年になります。1年目も様々な事業にお伺いして、本番を拝見することがとても大事だなと思っておりますし、またその本番の前にも、お目にかかってお話を聞いたりしています。そして、そのこと自体を事業者さんも、私達もですけども、評価というか次に繋げ、経年で変化をはかるためにも、アンケートのお願いをしております。それについては、文化政策や調査の専門家に初年度から入っていただいています。アンケートの設計をしていただいて、事業者さんに実施していただいたアンケートをもらって、それをまたデータ化して、現場にもフィードバックする、そんなふうに続けていきたいと思っています。

また、伴走支援という言葉自体は、ちょっと上から目線に聞こえてしまう言葉なので、アーツカウンスル内でもこの言葉には喧喧諤諤しております。ただ未だにピッタリの言葉が見つけられていなくて、お邪魔にならないように伺います、と言いながら進めています。また、採択された方のみではなく、堺市からの採択結果を受けて、不採択となった方には結果通知のときに、その点についてコメントをお返ししたり、またいつでも相談に乗りますということもお伝えして、関わりを持っています。そのようにしておりましたら、どこか会場ありませんか、であったり、他の助成金にも申請がしたいという相談、事業チラシのレイアウトを見てください、など、いろいろな相談がきております。

次に、文化芸術政策の推進について。こちらは、先ほどもお話をしました地域文化会館の職員さんとのワークショップの実践研修です。社会包摂というのは、本当に正解がないなあとも私も思っていて、取組の幅は本当に広いです。いくつかの視点はあると思いますが、私自身は職場のスタッフ同士が自分の気持ちを正直に伝え合ったり、違和感があったことを話したりする、チーム連携することも社会包摂だと思っています。そして、市民の方がいらした時に、なかなか声にならない声を聞き取っていく。そしてそこから関わりを持っていくような仕方でプログラムを考えていく、プロジェクトを考えていくような力になったらいいなと思っています。1年をかけて、実際にアーティストを招き、企画を組み立て、そしてそれを振り返る力をつけていく研修を行おうと思っています。モデル事業ということで、その翌年、令和5年度には、実際に地域の文化会館の職員さんが、不安なときは一緒に学んだ他の文化会館内の職員と協働しながら事業を行っていかれたらと思っています。これについては財団の皆さんに協力いただきながら行っていきたいと思っています。

3番目、調査研究・情報発信です。このご時世ではSNSを活用する必要があるということでアーツカウンスルでもTwitterを始めました。公募型補助金が採択した事業の発信であったり、堺市の文化課の行っている事業等を発信しています。これまで視察について、内部向けのレポートは書いておりました。でも、せっくなので、このレポートを公開し、市民の方に見ていただくということで、ホームページ上に掲載して、掲載されたタイミングでTwitterでお知らせしております。また、1~2か月に1回不定期ではありますが、ニュースレターという形で、公開されたレポートや勉強会のことをお知らせしています。

そして1年間のことをとりまとめる報告書も現在作成中です。先だって全てのP0達が集まり座談会を行いました。それぞれにこの1年間を振り返り、そして次年度に向けての話もしました。それらもまた報告書になります。冊子印刷は行わず、インターネット上に掲載します。完成は10月~11月ぐらいの予定です。

そしてもう一つ、去年コロナの中でなかなか難しかった、市民との勉強会です。オンラインでも実施をしましたが、今年是对面での実施を考えています。勉強会と、もう少しゆるやかな交流会の2本立てで考えています。勉強会につきましては、6月27日に、財団の事業係長さんにお越しいただき、お話していただきます。係長さんのこれまでの活動、アマチュアオーケストラの人たちが、アマチュアだからこそできる活動、例えば地域の子どものためのキャリア教育の話ですとか、専門家じゃないからこそその取組をされていらっしゃると思いますので、そうした活動をお話していただくことで、堺でこういう活動をしている人がいますよと

いうことを知っていただき、そしてご自身たちの活動にも生かせるようワークシートを作成する勉強会を開催いたします。そしてもう少し緩やかな雰囲気、多様な人たちが出会える場をつくろうと思っています。堺でどんな人たちがいるのか、福祉の取組をしているけど、芸術に少し興味があるかなあとか、そういう人たちが知り合えるような交流会も併せて行っていきます。7月に西区役所で行います。この2本立てを続けながら、後半は補助金の説明会へと繋がっていきます。交流会のときにも、個別相談会も設け、悩んでいる、困っていることも聞いていこうと思っています。

補助金の申請時期は、秋から冬にかけてですが、昨年もたくさんの方が相談に来られましたので、今年度は日を決めて、この日来てくださったら相談受け付けますよと相談日を設けようと思っています。同時に、相談に来てくださる方というのが、堺の文化芸術の資源だと思います。その集まりそのものを調査していくことによって、堺の状況というのを、点から目に見えていくような調査をして、これも経年でやっていきたいなあと思っています。アーツカウンシルからの報告は以上です。

◎会長

大変丁寧に説明していただきまして、これからもよろしくお願いします。この件につきましてのご質問ご意見ありましたらどうぞ

○田辺委員

先ほどのワークショップの実践研修ですけども、年に何回行う予定ですか。

●堺アーツカウンシル PD

7月から始まりまして、3月まで月1回行います。

○田辺委員

審議会の視察を行うときに何の題材を話し合うかは決まっていますか。

●堺アーツカウンシル PD

8月については、先ほど申し上げたワークショップを分解するというテーマです。7月に、社会包摂って何だろうというところ勉強します。8月はワークショップを実際に体験してみ、例えばアイスブレイクは何のために入れるのかといったことを分解して学んでいきます。視察に来ていただいたらワークショップに詳しくなるかもしれません。

○田辺委員

そうですね。そういう活動はSNSとかで紹介されるんですか。

●堺アーツカウンシル PD

レポートで発信する予定です。

○田辺委員

それはどのような形で発信されますか。

●堺アーツカウンシル PD

すみません。レポートの内容については、そこまで詰めきれていませんでした。勉強会は少なくともレポートしようと考えていたんですけども、この実践研修については、都度レポートするというより、まとめたレポートになるかも知れません。

○田辺委員

勉強会とか交流会は公開されるんですか。

●堺アーツカウンシル PD

録画するということですか。

○田辺委員

いえ、例えば SNS やチラシなどで勉強会や交流会も紹介されますか。

●堺アーツカウンシル PD

勉強会と交流会は市民向けですので、Twitter で実施の案内を行います。また、今は実際に行ったものを録画することは考えておりませんので、文章や写真になりますが、こういう取組を行いましたとレポートし、SNS で紹介します。

○田辺委員

ありがとうございます。

●文化課

補足になりますが、今お手元にリーフレットを配らせていただいております、その中にニュースレターも入れているかと思うのですが、こちらでも勉強会の開催レポートというの発信をしていく予定にしております。

◎会長

それでは全員にご発言いただきたいと思います。ここから先は、どの項目に関してのご意見、ご質問でも構いません。それでは柿本委員さんから順番にお願いします。何回発言してもらっても結構ですけど、1回2、3分くらいで区切っていきましょう。

○柿本委員

ありがとうございます。今アーツカウンシルの活動予定を聞きまして、このリーフレッ

トができましたと拝見して、始まってちゃんと形になって、素晴らしいなというある意味感動しております。こういう試みが、堺市で行われているというのは、素晴らしいなあと。今後もますます発展していくように、私も頑張らないといけないなと思っております。

視察についてなんですけど、私は去年、このさかいミーツアートだったかな、小中併設の中学校の音楽の事業を拝見したんですけども。非常に面白い体験をさせていただきました。特に子どもたちに対する、働きかけ、これすごく大事なんだと改めて確認しました。視察先は未定ですけども、またチャンスがあればと思っております。できるだけ多くの視察には行きたいなというふうに考えています。以上です。

◎会長

はい、ありがとうございます。さいとう委員どうぞ。

○さいとう委員

本日来たときにも申し上げたんですけども、堺市民として、他府県の方々が本当にこうやって堺の文化芸術に対して、真摯に取り組んでいただけているんだなとしみじみ思いまして、改めて感謝申し上げたいと思います。それですっと思ってたんですけど、なかなか一般の方に向けて、こういった活動が、例えば見開きで図があって、こういう活動がこういう施設でこんな感じで行われているという、開いたときにぱっと分かるような、そういうものがあるとより分かりやすいかなと。なかなか文章を把握するとかは、一般的な方々には分かりにくいことなので、ぱっと見て分かる、例えば将来的なシンボルマーク的なものがあるとか、あとこっちの方にも図はいろいろありましたけど、施設はこう配置していますといったような、本当に開きでぱっと分かるようなものがあると、より分かりやすい。そしてアーツカウンシルさんがそういうところでこういう役割を果たしていますという、前に中川会長がおっしゃった町衆的なネーミングとかもあり、そういうシンボルマーク的なものもあって、より分かりやすく伝えたらいいんじゃないかなと思いました。そんな感じでロゴマークとかはできないのかなということを上げたら、やっぱり予算がという話になって。でも予算もそんなに増える要素もなかなかないじゃないですか。なので、何か増やせる要素はないのかなと勝手に考えていたんですけど。文化芸術も伝えつつ、そういうことは何かできないのかなと思ったりはしています。今絵本の業界では、絵本専門士というのがありまして、国立青少年教育振興機構というところがやっていて、それは1人授業料が6万5000円もかかるんですけど。絵本の読み聞かせの専門士は、資格を取るためにみなさん熱心に書類審査とか文章を書いたりして行われるんですけど、合格率は低いそうです。最近は絵本専門士の下に絵本認定士という資格ができて、もう少し若い世代向けで大学で取得できるような資格なんですけど、何かそういったこともないのかなと思いましたので、お話をさせていただきました。以上です。

◎会長

今のご提案についてですが、分かりやすい見開き版みたいなものを作りたいというのは

アイデアとして良いと思うので、予算を幾ばくかひねり出してさいとう委員に作ってもらったらどうですか。書いていただかなくてもピースとしてこんな配列だとか、ここにこんな漫画を入れたらどうでしょうと言ったように、そういうことを企画して実現したどうですか。どこが主体となるのかは行政にお任せします。仕組みとして、一般市民から見たときに工夫がされていない。財団は何をしているの、役所の本庁は何をしているの、役所の本庁と各施設の関係はどうなっているのというのは、市民から見て分かりにくいでしょうね。今アーツカウンシルが加わっているの、余計分かりにくくなっているかもしれない。それを分かりやすくするためのツールは必要だと思います。一度検討の余地はあると思います。それと第2点のいわゆる土業というのか、今民間でも社会教育士というようなものがありますが、そういうことについて堺市は行わないのかということですね。

○さいとう委員

そうですね、予算がないというのをよく耳にしたので。

◎会長

予算の問題というより、当局が仕組みとして必要と思うかどうかだと思います。今の話で実際に動くとなれば図書館ですよ。

○さいとう委員

絵本専門士ということではなくて、これはもうすでにありますので、そうではなくて、文化芸術に興味を持ってもらえて、高められる、例えば千利休のような偉人がいますから、そういうものに興味を持ってもらえるような何かということです。

◎会長

当たりかどうか分かりませんが、行政をお願いしているのは、アートコーディネーター的な人をもっと作らないと駄目ということを行っています。市民とアートを繋いでいくという、お世話役と言うのでしょうか。今のアーティストと市民の関係は、アーティスト自らがアクセスしていかないといけない。これは非常にハンデがあります。そのハンデのところに、色々なプロモーターが入っています。音楽ではかなり営業的に成り立っていますが、他の分野ではまだブラックマーケットになっている面もあります。そういうのはよくないということで、もっとアーティストと社会を繋ぐコーディネーターを育成しようという話をしています。そういう研修プログラムをもっと開発していこうという話をしています。そういう趣旨ならば、むしろ応援演説なのかなと思います。その件について、今行政は問題意識を持っていますよね。

●文化課

はい、まさに今回の社会包摂型ワークショップ実践研修が該当します。

◎会長

そういうことですね。よろしいですか。

○さいとう委員

はい。

○菅野委員

今回アーツカウンシルが入ることによって、市民とアーティストとの繋がりが少しずつ増えてきているなということ。交流会もあるので、いろんな分野が関わることで、社会的課題の解決がどんどん進んでいくのではないのかなとすごく希望を持っています。今回指定管理者の担当者に向けた研修も始まりますので、これもすごくいいことだなと思っています。担当者が直接マネジメントができるようになるということで、色々な事業がスムーズに進んでいくのではないかなと期待しています。質問なんですけれども、今回この研修で出てきた、例えばそのワークショップのアイデアなどは、今後、何かで活用されることは考えていらっしゃるのでしょうか。

●堺アーツカウンシル PD

令和4年度の研修内容を生かして、令和5年度に各館で実践として行いたいと思っています。そしてそれらを模倣しながら、今後色々な事業を組み立てていただけたらと思っています。

○菅野委員

ありがとうございます。もう一つ、アーツカウンシルのニュースレターなんですけど、これはどこで手に入るものですか。一般市民が気軽に色々なところで見ることができるものですか。

●堺アーツカウンシル PD

まず、ウェブサイトには上げています。Twitterでもニュースレターが発行されますとホームページのリンクを貼って発信しており、そこからホームページに移動してご覧になることができます。また、補助金採択事業のチラシ等を置くために、各文化会館に文化課から送付したラックを設置してもらっています。そこにもニュースレターを配架していただくことになりました。各所というわけではないですが、文化会館にもあります。

○菅野委員

文化に興味があるという方は、比較的手に取りやすいということですね。

●堺アーツカウンシル PD

そうです。

○菅野委員

図書館や区役所など、もう少し色々な方の目に留まるところがあればいいなと思いました。以上です。ありがとうございます。

○田辺委員

さかいミーツアートやアートスタートプログラムは、堺の政策の中で重点的な部分だと思いますが、こういう活動を知っている人が少ない部分があるのかなと思います。学校の校長先生自身もあまり知らないこともあると思います。お子さんが写るので難しいと思うのですが、こういうものを SNS など公開するなど、堺のアート活動を公開する仕組みを作る必要があると思います。堺オフィシャルの Instagram 等はあると思いますが、アートに関することを発信する SNS の拠点みたいなものがあればなと思いました。せっかくいいプロジェクトなのに参加数がすごく少なかったり、参加する学校が少ないかなと感じます。アーツカウンシルを含む、堺が行っている子ども教育などの色々な活動について、アートをこんなところでやっているんだとか、アートはここで知れるんだとかとなるように、写真や TikTok のような動画などにより、若い人が非常に興味を持つような SNS を活用した情報発信についてはいかがですか。

●文化課

堺アーツカウンシルでは Twitter を 4 月にオープンしたのですが、そこでは様々な文化の事柄について発信しています。色々課題はあるかもしれないですが、今ご意見をいただきましたように、確かに一つの学校で完結するのではなくて、堺市はこんなに子どもたちがアートに触れる機会を作る活動をしているということを知っていただくのは、すごく重要ことだと思います。学校の方にも協力を得られるように依頼していきたいと思います。ありがとうございます。

●堺市文化振興財団

田辺先生のご意見を補足させていただくと、今のご意見はおそらく財団の取組もそうですが、市内の文化芸術の事業について一括で報告や情報が見えるポータルなものがあれば良いということだと思います。それに対しての現状を申し上げますと、堺市文化振興財団では、アートスタートプログラムやさかいミーツアート、子ども食堂事業など、事業が終わった際には、可能な限り写真を基にフェイスブックでレポートを作成しています。長くなりすぎても読みづらいので、200~300 文字程度、写真は 5, 6 枚程度とルールを決めて、可能な限り全てにおいてこんなことをやりましたというふうに報告できるように努めているところです。

○永島委員

まだ整理しきれてないところがあり、少し重複するところがあるかもしれませんが、ア

ツカウンシルと言われたときに、これから活動が広がっていった知名度が高まっていくと思うのですが。やはりかなり意識の高い方じゃないと、アーツカウンシルと言われても分からなかったり、文学や音楽といった自分の活動がアーツカウンシルとどう繋がるのかといった意味が分かりにくいことがあると思います。例えば私の周りでは、音楽活動を行う人間が文化芸術の枠組みに入っているのか思っているかということ、ちょっと意識が薄かったりもします。すでにご提案がありましたけれど、具体的な地域であったりとか、活動などが文字であったり、漫画であったり、マップのようなものがあると、より自分の活動と市民の活動とが繋がるというふうに連想しやすくなるのかなというふうに思いました。

あとはせっかくこの素晴らしい事業をしていることを、どう広報していくかというところで、例えば SNS にアップするにしても、知っている市民が出ていると見ますし、アウトリーチ事業にしてもそれがどこかの公演と結びついていると、それによって家族の人は見に来ると思います。広報紙についても、たとえばですが、学校全体の配布はしなくてもいいかもしれないけれども、吹奏楽部やダンス部といった関連する学校の部活動などを通して配布すれば、現場で活動している子どもや生徒、指導者などにも情報が届きやすくなっていくのかなと思いました。

これで最後なんですけれども、勉強会や交流会について、もし可能であったら、一部でも動画を公開していただけるといいと思います。先日も財団の事業を一般公開していただいて、そうすると空き時間にちょっと見ることができて、非常に助かりましたので一部だけでも公開をご検討いただければと思います。以上です。

○坂東委員

今日お話をお聞きして感じたのが、企画担当者向けのワークショップ実践研修がすごく有意義な事業で企画担当者の方を育てるといった大きな意味があると思います。永島先生がおっしゃった話と関連するかもしれないんですけども、やはり動画で記録しておいていただきたいという思いがありまして。特にこのワークショップ実践研修などは、全国の自治体でも同じ悩みをお持ちのところが多いと思いますので、たとえば動画で撮っていただいて YouTube で公開するとかですね。もちろん堺市に向けた事業ではあるんですけども、広く共有していただいたらどうかなと思いました。先ほど PD さんから「これを見ていただいたらワークショップに詳しくなれると思います」というお言葉がありましたが、広くそうなっていけばいいなと思いました。以上です。

○弘本委員

どうもご説明ありがとうございました。まだ起ち上げてから短い期間しか経ってないのに、皆さんこれだけ考えに考えを重ねて事業を作っているというのに感銘しながらお聞きしていました。PD 自身もおっしゃっていたように、やはり点から面に広げていくといいますか、アーツカウンシルが関わることによって点を面にしていけるという構図が見えてきたなと思いました。特に実感されているように、補助事業をやることによって、きらきらとしたたくさんの点が地域の色々なところにあるというのが見えてきたのは、大き

な成果だなど。採択された、されないに関わらず、地域に活動されている方がたくさんいらっしゃるというのは大きな資源だと思います。文化会館の企画担当者向けの研修を実施することで、文化会館を一つのハブにして、そこに点が集まっていて面に広がっていく、地域に広がっていく、しみこんでいくというビジョンが見えてくると、堺ならではのアーツカウンシルの役割として、非常に意味があるなと希望を感じました。

それから社会包摂型事業に力を入れていくということと関連して、PD 自身もおっしゃっていましたが、やはり市民の声を聞くということが、とても重要なんじゃないかなと。コロナ禍になって3年ほどたって、ようやく対面の事業もできるようになってきていますけども、ものすごく格差が広がっていて、困っている人とそうでもない人の距離が広がってきていて、困っている人への共感性みたいなものが生まれにくい。またそれが見えにくい状況というものも広がってきている可能性があると思います。特に子どもたちが置かれている状況には深刻なものがあるのではないかなという気もしています。そういう声を最前線にいる方々から聞き取る場としても機能していくといいんじゃないかと思いました。そういう意味でも、地理的にカバーしていくという発想を常に持つておかないといけないということも感じました。

あと一つだけ。図書館などにも情報提供できればという話が出ていましたけれども、このニュースレターやアーツカウンシルの取組や研修の内容なども含めて、そういうものがその他事業としてこの一覧化されている事業カードにまとめられています。このカードにある様々な事業をしていらっしゃる主体の方々にも、うまく情報が届けられることが大切だなと感じました。例えば図書館などは、やはりこれから地域の中でとても重要な役割を担っていかないといけないところだと思いますので、そこに社会包摂型の視点でこういうことが可能ですよといった発想が届いていくと、さらに役割が開拓されていくかなという気もします。そういう資源としてもこの事業カードが生かされていき、情報が繋がってくるなと思いました。

○藤野委員

堺アーツカウンシルや堺市文化振興財団のご報告を、日本における最も先進的な取組と思って聞いていました。堺が進めているアーツカウンシルの形というのは、これから全国に広がってほしいなと。その意味でパイロット事業がうまくいくよう願っております。僕の印象で言うと、堺のアーツカウンシルは全体を繋ぐかすがいのようになっていて、劇場を持っている財団があり、民間の指定管理者があり、文化行政があり、審議会と紐づいているわけですね。そして市民、アーティストとも繋がっています。そういったハブとういか、かすがいのような機能を果たしているの、こういったことをどんどん見える化していくということが重要なかなと思います。

先ほどお話があった事業カードの取りまとめも、すごく大変な行政側の作業だと思うんですけども、いろんな部署が様々な文化芸術に関わる事業をやっていて、それぞれ非常に価値のある魅力的なものだと思います。私はここ最近、地域創造で出している図を使いながら、基本は文化ホールなどがハブになって、行政や色々な場所や組織、アクターたちが繋が

っていく文化的コモンズというイメージをいろんなところでご紹介しています。そういったイメージを使うとすると、この事業カードはただ単に一覧表じゃなくて、どこどこが繋がっているのか、どこの繋がりが強いのかなど色々な配線図が見えてくると思います。それは大変な仕事でアーツカウンシルのやることかどうか分からないですが、そういったその文化的コモンズによって全体の見取図がわかって、そのどこどこが今繋がっている、あるいは十分につながっていないということが見えるといいなと思います。

それからこの審議会は、どこまで目配りしたらいいのでしょうか。今はとりあえずアーツカウンシルと財団が中心になって進めている三つの重点的方向性ですね。この事業の評価を一番丁寧に行っていて重要な仕事だと思います。まず3番目に上がっている「多くの人に魅力を伝える」は、コロナがあって一番できなかったところなのかもしれないのですが、いわゆる市外や国外の人々への堺の文化資源の魅力を発信するという攻めの方法ですよ。ここを次の段階として取り組むべきところという気がします。まだ底が浅いような感じがします。これだけ文化資源に恵まれているところですし、芸術文化と観光とをかけあわせるというのが一番大きな宿題として取り組んでいますので、堺だったらできるんじゃないかなと思います。そもそもこの部署は文化観光局ですよ。文化と観光という良い資源を持っていますので、そういう繋がりでも、この3番目の多くの人に魅力を伝えるというのは次のステップとして重要になってくるかなと。

それと同時に社会包摂については、堺は非常に市域が広いので、いわゆるゾーニングですね。社会的課題と一言で言うけれども、やはりコロナによって見えないものも含めて格差が広がってきた。つまり地域別の課題を丁寧に拾い出していくというのも、おそらくアーツカウンシルの仕事になってくる。大変な仕事ですけど、上田さんは十分にご経験もおありかと思えます。ぜひ進めていただければいいなと思います。

それからどこまで私達が目配りしたらいいのかという最後のポイントなんですけれども、文化予算が多く使われているのはフェニーチェ堺ですね。フェニーチェ堺を運営しているのが財団なんですけども、その財団の事業評価そのものは審議会マターなのか、それとも財団の理事会や評議会のようなところで完結して、その報告もされなくてもいいのかどうかですよ。大型の事業などもあると思いますが、そういったものに対して、私たちは情報もあまりありません。実際にどういう公演が行われていて、それが本当に市民にとって有意義なのかということも、私たちは知る必要があるんで、財団の事業本体の評価までもここでやるべきというようなことについてもお聞きしたいなと思います。

◎会長

ありがとうございます。藤野委員から大変大切な指摘がされました。これについては、まず行政側のご見解はいかがでしょうか。条例上解釈すると当然答えはあるんですけど。まず事務局いかがですか。

●文化課

中川先生におっしゃっていただきましたとおり、今回の諮問は堺の文化芸術全体に対す

る計画を評価していただくという形になっておりますので、当然財団の事業を含むというふうに市としては思っております。ただ、時間と工数に限りがありますので、どういう形でどこを重点に評価していくかという点で申し上げますと、財団については先生におっしゃっていただいたとおり、評議委員会と理事会をそれぞれ持っておりますので、まずは自己評価を行っていく。そこは外部理事も入れていながら実施していくという形になります。審議会がどこまで踏み込んでいくのかというところは、財団とあとは審議会の中でもご議論いただければいいのかなと。もう少し審議会が踏み込むべきというご意見であれば、審議会はその権利があると思っております。昨年度はまずは財団以外の事業ということで西文化会館の太鼓を視察いただきましたが、今年はフェニーチェ堺の事業であるダンスパワーを視察いただきます。当然その事業だけを見ていただくわけではなく、予算額や事業計画、方向性といったフェニーチェ堺の全容についても評価いただければと思います。フェニーチェ堺は文化芸術の拠点ですので、市内外の方に来ていただくための上質なクラシックから、社会包摂型の事業まで様々な事業を実施しています。今年もビッグ・アイと連携した事業などもやっておりますが、残念ながら視察の機会は確保できませんでした。まずは8月27日の視察の際にフェニーチェ堺の全容を説明させていただいて、そこでもぜひ貴重なご意見を頂戴いたしたいなというふうに思っております。お答えになっているかどうか分かりませんが、以上です。

◎会長

基本条例という位置づけがあって、それに基づく基本計画が策定され、基本条例の通りに行政が運営されているか、仕事がされているかということについて、この審議会はいわゆるモニタリングし強化する役割を担っているわけですね。先ほど言ったルーチンワークというのはそれですけど。条例秩序の中に、行政だけではなく当然財団も各施設も入っています。アーツカウンシルはこの審議会のいわゆる専門部隊的な位置づけですからその一部ですよ。したがって、その条例秩序の中にある限りは、財団の経営も当審議会の所管事項です。ただ経営自体に関しては、一定分権化されて自治の範囲内で考えてくださいねということ。あんまり細かいお金の出し方について意見を言うつもりはありません。むしろ財団の存在そのものが有効性を発揮しているかどうかということ、我々は見れば良いと思いますし、そこで行われている事業が条例および計画に沿っているのかどうかという点をチェックすれば良い。私はそう思っていますが、あまりそれに逸脱することがあれば、ちょっと待ってくださいということは、言わねばなりません。今回は市長からの諮問があったので、財団の経営に関しても意見を述べさせてもらいました。特に財団に支出している補助金を通じて財団の経営のあり方についても意見を言ってもらったら結構ですということでしたから、かなり立ち入った議論をお互いにしたことは事実です。お互いに腹を割って虚心坦懐に、現状を理解し合って、現状を打開していくということだったと思っています。ということで藤野先生のお考えになっている我々の所管事項から言うと、堺外ではあり得ません。以上のとおりでございますが、何か他に追加事項ございますか。

○さいとう委員

補足させていただきたいのですが、絵本専門士の話は例です。アメリカに住む日本人たちと色々と交流とかさしてもらっていると、わびさびというのは、アメリカの若者たち、とくにおしゃれな若者たちがこぞってわびさびと言っていて、日本語ではなくてローマ字の wabisabi と言ってすごく気取っているらしいんですけど。そういう人たちをターゲットにして、何かできるものはないのかなあとか。例えばですけども、せっかくのいいものがたくさんあると思うので、それを上手く、国内だけではなくて海外にも発信できたらいいのではないかなあと思って。なおかつ予算も増えるような要素があるといいんじゃないかなあと思って先ほどお話をさせていただきました。

◎会長

それでは委員としての私の発言を申し上げます。一つはアーツカウンシルについては非常に素晴らしいということで、現在のところ非常にありがたいご評価をいただいたと思います。日本全国にアーツカウンシルを名乗っている団体は六つぐらいあるかな。その中で、堺のアーツカウンシルこそ日本で最先端という、しかも理念を持った存在だと思っているし、それを今頑張ってくださっている PD は非常に荷が重いと思っているかもしれないけれど、頑張っていたきたいと思います。

それからもう1つ、アーツコーディネイターというか、中間支援ができる市民ボランティアをもっと育成しないと駄目だと思います。将来的にそれが職業化できるぐらいの回路を見つけて欲しいなと思っています。行政はすぐに中間支援組織ができると、財団であれば財団、アーツカウンシルならばアーツカウンシルにお渡ししますという話をしてしまうんですけど。そうではなくて、基盤、つまりインターフェースの改革が必要なのに、市民社会側のインターフェースが全然開発されてないんですね。それを中間支援の財団やアーツカウンシルがいるからできるでしょうということではありません。市民側にもお世話ができるコーディネータ的資質を持った人あるいは能力も必要だし、行政側もそうなんです。行政は3年経ったら人事異動で変わってしまう。専門性が育たないというならばどうしたらいいのか。これはたとえば先ほどお話にあったアーツカウンシル主催のワークショップ実践研修のようなものを毎年やっていくことです。今回は企画担当者が対象ですけど、もっと一般市民に入ってもらわなければならない。また行政も人事異動で変わる度に、もう一度初心に戻って文化政策を基礎から勉強し直す訓練をして欲しいです。ベテランになればなるほど詳しくはなるけれど、異動の確率が高くなります。であるからこそ、毎年やる必要があるということをお願いしたい。その予算措置をしていただきたい。市民側のコーディネーター育成予算と行政側の研修予算。行政の研修というのは施設担当の研修も含めます。今回のワークショップ実践研修は施設も含めているから、両方ごちゃごちゃになっているという面があるなと僕は思います。そういう意味では仕方ないと思いますけど、行政、あるいは施設運営側と市民社会側のコーディネーター研修と両方必要です。それがうまくいった町というのはすごく動きがスムーズになっています。財団との関係も非常に活性化していきます。それは私自身が経験したので申し上げます。そうなる

と、各区の課題とどなたかおっしゃっていましたが、各区の課題が浮かび上がってきて、区の文化ホールのやるべき仕事をもっと明確に見えてきます。それが見えていないから、お客さんに集まってほしいということでポピュリズムに流れてしまったというのが、これまでの悪循環。この悪循環を断ち切るためには、やっぱり区ごとの課題が見つけれられるような、いわゆるリサーチャー、コーディネーター、あるいはプロデュース感覚を持った市民層をもっと開発しないと駄目だと思いますね。それからこれは提案ですけど、私はビッグ・アイの運営委員なのですが、障害者とアートを結んでいく、あるいは障害者とアーティストを結んでいくコーディネーターを育成する講座をやっています。そういうものをビッグ・アイばかりに任せるのではなくて、堺市としても提携していくというスタイルをとった方がいいんじゃないかな。それが本当の社会包摂になるんじゃないだろうかという気はします。

それから次、クレジット入れることを忘れないようにしていただきたい。このアーツカウンシルのリーフレットは3月に作られたんで仕方ないかなと思うんですけどね。前もお願いしたように、これからは財団の事業であろうが行政の事業であろうが、この事業は条例第何条に基づき策定された基本計画第何番の事業ですとか、クレジットをつけてくださいとお願いします。そうでないのに宝くじの助成金でやっている事業ですと大々的にやっているでしょう。宝くじの事業ならクレジットをうって、市民に税金出してもらっているのにクレジットをうたないというのは背反行為じゃないのかと私は思うので。クレジットを入れることで、堺に条例があるのか、アーツカウンシルが頑張っているんだねと思ってもらえる材料になるんですよ。そのクレジットを入れてください。

併せてもう一つ提案なんですけど、学校へのミーツアート事業の1回当たりの経費を捻出するために、商店街の方や堺市内の企業さんたちに1パッケージ10万とか20万とかでスポンサーになってくださいという運動を起こしませんか。そうしたほうが堺市の産業界が活気づくんじゃないですか。そしてアーティストに対して、一定の謝礼金が必要だと思います。堺市内の文化協会所属の方だったら、例えば一定のセレクション、研修を受けていただく、あるいはその研修を受けていただいた上で例えばこのくらいの金額は出しますとかね。そのぐらいにやっぱりレート上げていってあげた方が、行く方も気持ちよく行けると思うんですよ。そういうふうなシステム開発しませんか。それが私の今日の提起をしたかったことです。

中間支援への丸投げはやめよう。それをやめるためにもインターフェースを頑張ってくれる市民コーディネーターあるいは行政側のコーディネート能力を高めるための研修、これを継続的にやっていく必要があるということです。もう一つ、学校との定期協議の場を確立してください。ミーツアート事業に関しては、ただ投げるだけではなくて、学校の校長会などで定期協議の場を設けられたら、先ほどどなたかおっしゃったように、校長先生がそんな事業があるなんて知らなかったということとはなくなると思います。それから事業カードについては非常にご苦労なさっていると思いますが、1事業単位ごとのカードなんであって、1施策単位のカードではありません。ここをもう少しブレークダウンしてください。1事業ごとに担当がはっきりしているはずだから、細かい1事業ごとに1つカード

を作るんです。取りまとめてやってしまうと、突き詰めていくとフェニーチェ堺の運営ということで1個で終わりになってしまう。中身が全くわからなくては困ります。取りまとめた結果がこうだったというのは分かりますが、その奥に何十枚もカードあるんだというふうに思いたい。以上です。あくまで私は一員として喋っただけですので、よろしくお願い致します。

それでは、他にご意見はよろしいでしょうか。本日たくさん皆さんご提起いただきありがとうございました。これをもちまして本日の審議会を終えさせていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。